



2023年8月15日

各 位

会 社 名 株式会社ダイイチ  
代 表 者 名 代表取締役社長 若園 清  
(コード 7643:東証スタンダード、札証)  
問 合 せ 先 取締役管理本部長  
兼企画 IR 担当 西崎 進  
(TEL. 0155 - 38 - 3456)

(訂正)「2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」の  
一部訂正に関するお知らせ

2023年8月14日に公表いたしました「2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」の記載に一部訂正すべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。  
なお、訂正前と訂正後を表示し、訂正箇所には下線を付して表示しております。

記

1. 訂正箇所

添付資料2ページ 1. 当四半期決算に関する定性的情報 (1) 経営成績に関する説明

(訂正前)

(前略)

売上高につきましては、2022年11月にオープンした「平岸店」が軌道に乗ったことに加え、地域別・店舗別のきめ細やかな販売戦略とお客様の期待に沿える価格戦略の展開、品揃え、サービス、接客に向けた継続的なレベルアップへの取組み等の結果、前年同期に比べ3.2%増加となりました。また、地域別の売上高につきましては、帯広ブロックは148億91百万円(前年同期比1.3%増)、旭川ブロックは102億99百万円(前年同期比2.1%増)、札幌ブロックは「平岸店」の効果等により107億64百万円(前年同期比7.1%増)となりました。

(後略)

(訂正後)

(前略)

売上高につきましては、2021年11月にオープンした「平岸店」が軌道に乗ったことに加え、地域別・店舗別のきめ細やかな販売戦略とお客様の期待に沿える価格戦略の展開、品揃え、サービス、接客に向けた継続的なレベルアップへの取組み等の結果、前年同期に比べ3.2%増加となりました。また、地域別の売上高につきましては、帯広ブロックは148億91百万円(前年同期比1.3%増)、旭川ブロックは102億99百万円(前年同期比2.1%増)、札幌ブロックは「平岸店」の効果等により107億64百万円(前年同期比7.1%増)となりました。

(後略)

以 上



## 2023年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年8月14日

上場会社名 株式会社ダイイチ

上場取引所 東札

コード番号 7643 URL <https://www.daiichi-d.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 若園 清

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼企画IR担当 (氏名) 西崎 進

TEL 0155 - 38 - 3456

四半期報告書提出予定日 2023年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年9月期第3四半期の業績(2022年10月1日～2023年6月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第3四半期	35,959	3.2	1,509	9.6	1,522	9.7	981	0.4
2022年9月期第3四半期	34,843	5.9	1,376	10.3	1,387	10.2	985	4.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第3四半期	85.90	
2022年9月期第3四半期	86.27	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第3四半期	23,151	15,590	67.3
2022年9月期	22,277	14,830	66.6

(参考)自己資本 2023年9月期第3四半期 15,590百万円 2022年9月期 14,830百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期		0.00		20.00	20.00
2023年9月期		0.00			
2023年9月期(予想)				25.00	25.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年9月期の業績予想(2022年10月1日～2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,600	2.2	1,760	6.5	1,770	7.8	1,175	1.0	102.83

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年9月期3Q	11,438,640 株	2022年9月期	11,438,640 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2023年9月期3Q	12,088 株	2022年9月期	12,088 株
------------	----------	----------	----------

期中平均株式数(四半期累計)

2023年9月期3Q	11,426,552 株	2022年9月期3Q	11,426,552 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(会計方針の変更) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの5類感染症への移行等により、インバウンド含めた人流回復が本格化するなど、社会経済活動の正常化が進展し、個人消費も緩やかに回復してきた一方で、世界的な原材料及びエネルギー価格は落ち着きつつはあるものの引き続き高水準にあることに加え、再びの円安などにより物価上昇が継続するなど、先行き不安定な状況が続いております。

スーパーマーケット業界におきましては、留まることのない物価上昇により、お客様の「低価格志向」、「生活防衛志向」が一段と強まっており、業態を超えた企業間の価格競争も激化、光熱費の高騰なども相まって、経営環境は厳しさを増しております。

このような経営環境のもとで当社は、食のライフラインとして、お客様が必要とされる商品・サービスの安定供給に取り組み、札幌近郊で発生した鳥インフルエンザによる卵の供給不足の際にも、これまでに構築した幅広い調達ネットワークを活用し、影響の大きかった札幌、旭川ブロックにつきましても前年並みの供給量を維持することができました。

また、電気料高騰への対応としては、リーチインなどの省エネ機器への入替や、冷蔵設備のメンテナンス強化による効率性の向上、きめ細かな温度管理の徹底などに努め、電気代の増加抑制に一定の効果を上げています。

継続的な取り組みとしては、食品スーパーマーケット事業に資源を集中し、お客様と従業員の安全安心を最優先に、当事業年度の重点実施事項である、①コンプライアンスの徹底（不正の再発防止とハラスメントの撲滅）を筆頭に、②新型コロナウイルス感染予防対策の徹底、③平岸店の地域No.1店舗を目指す、④競合店対策強化、⑤働き方改革、⑥新規出店の具現化、⑦コア商品の開発による差別化戦略の推進、⑧社会貢献、地域貢献による地域密着型企业への更なる挑戦、⑨環境変化に対応するため情報収集力の強化、の9項目を徹底し、お客様、地域の皆様に、今まで以上に必要とされ、愛される店づくりに努めております。

また、コーポレート・ガバナンスの一層の強化を図るとともに、「フレッシュ&ハート」を合言葉に、①地域No.1の店づくり、人づくり、商品づくりの徹底、②従業員が生き活きと仕事ができ、お客様と共に働く仲間感謝と思いやりを持てる職場環境の醸成、③自由活発で、風通しの良い企業風土の醸成を引き続き進めてまいります。

日頃のお買い物にご不便されている方々に商品をお届けする「移動スーパー（とくし丸）」事業は、社会貢献及び地域貢献の一環として取り組んでおり、6月末現在で15台が稼働しております。今後も地域のニーズに積極的に対応すべく、増車を検討してまいります。

6月末現在の店舗数は、帯広ブロック9店舗、旭川ブロック7店舗、札幌ブロック6店舗、合計22店舗であります。店舗戦略につきましては、今年の秋にすすきの店の出店を予定しているほか、既存店舗につきましても、4月に東旭川店のリニューアルを実施するなど、更なる業容の拡大に努め、中長期的な企業価値の向上と持続的な成長の実現に取り組みます。

イトーヨーカ堂との協働につきましては、セブンプレミアム商品の取り組み強化と、帯広地区における共同販促の実施、リスク管理など有用な情報の交換に努めております。

売上高につきましては、2021年11月にオープンした「平岸店」が軌道に乗ったことに加え、地域別・店舗別のきめ細やかな販売戦略とおお客様の期待に沿える価格戦略の展開、品揃え、サービス、接客に向けた継続的なレベルアップへの取り組み等の結果、前年同期に比べ3.2%増加となりました。また、地域別の売上高につきましては、帯広ブロックは148億91百万円（前年同期比1.3%増）、旭川ブロックは102億99百万円（前年同期比2.1%増）、札幌ブロックは「平岸店」の効果等により107億64百万円（前年同期比7.1%増）となりました。

売上総利益率につきましては25.2%となり、前年同期比0.8ポイント改善しました。

販売費及び一般管理費の売上高に対する比率は22.1%となり、前年同期比+0.5ポイントとなりました。

また、9月売却予定の旧本社ビルの減損損失85百万円を計上しました。

これらの結果、第3四半期累計期間における売上高は359億59百万円（前年同期比3.2%増）、営業利益は15億9百万円（前年同期比9.6%増）、経常利益は15億22百万円（前年同期比9.7%増）、四半期純利益は9億81百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期会計期間末の資産につきましては、前事業年度末に比べ8億73百万円増加の231億51百万円となりました。流動資産においては、現金及び預金の増加7億81百万円、売掛金の増加64百万円、商品及び製品の増加1億13百万円に対し、その他流動資産の減少1億32百万円等により、前事業年度末に比べ8億25百万円増加の97億45百万円となりました。固定資産においては、減価償却等による建物の減少1億78百万円、減損による土地の減少85百万円、その他に計上されている工具、器具及び備品の増加46百万円やリース資産の増加97百万円等により、有形固定資産が90百万円減少したのに対し、無形固定資産が52百万円増加したこと等により、前事業年度末に比べ48百万円増加の134億5百万円となりました。

## (負債)

当第3四半期会計期間末の負債につきましては、前事業年度末に比べ1億13百万円増加の75億60百万円となりました。流動負債においては、買掛金の増加1億60百万円及び賞与引当金の増加59百万円に対し、未払法人税等の減少58百万円、その他流動負債の減少1億11百万円により、前事業年度末に比べ49百万円増加の55億93百万円となりました。固定負債においては、その他に計上されている長期リース債務の増加96百万円や長期未払金の増加1億6百万円等に対し、長期借入金の減少42百万円、役員退職慰労引当金の減少1億6百万円等により、前事業年度末に比べ63百万円増加の19億66百万円となりました。

## (純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べ7億60百万円増加の155億90百万円となりました。

これは主に、利益剰余金の増加7億53百万円等によるものであります。この結果、自己資本比率は67.3%となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の通期業績予想につきましては、各種営業推進施策や経費削減努力等により、足下までの業況が堅調に推移していることを踏まえ、通期の業績予想を上方修正いたしました。

修正後の通期業績予想に対する第3四半期までの進捗率は、以下の通りです。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
修正後 通期予想 (A)	47,600	1,760	1,770	1,175	102.83
第3四半期実績 (B)	35,959	1,509	1,522	981	85.90
進捗率 (%) (B)/(A)	75.5	85.7	86.0	83.5	83.5

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,703,024	7,484,170
売掛金	622,376	686,613
商品及び製品	988,370	1,101,489
原材料及び貯蔵品	1,622	939
その他	606,794	474,077
貸倒引当金	△1,500	△1,500
流動資産合計	8,920,686	9,745,791
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	4,433,584	4,255,313
土地	6,287,358	6,202,152
その他（純額）	998,605	1,172,073
有形固定資産合計	11,719,548	11,629,539
無形固定資産		
その他	23,323	75,999
無形固定資産合計	23,323	75,999
投資その他の資産		
長期貸付金	661,987	627,710
その他	952,152	1,071,973
投資その他の資産合計	1,614,140	1,699,684
固定資産合計	13,357,012	13,405,223
資産合計	22,277,699	23,151,014
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,771,971	2,932,142
1年内返済予定の長期借入金	56,004	56,004
未払法人税等	304,849	246,205
賞与引当金	195,627	255,377
その他	2,214,916	2,103,593
流動負債合計	5,543,367	5,593,321
固定負債		
長期借入金	153,991	111,988
退職給付引当金	669,465	695,643
役員退職慰労引当金	106,800	—
資産除去債務	16,980	16,980
その他	956,159	1,142,087
固定負債合計	1,903,395	1,966,698
負債合計	7,446,763	7,560,020
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,639,253	1,639,253
資本剰余金	1,566,100	1,566,100
利益剰余金	11,644,191	12,397,219
自己株式	△2,980	△2,980
株主資本合計	14,846,564	15,599,592
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△15,627	△8,598
評価・換算差額等合計	△15,627	△8,598
純資産合計	14,830,936	15,590,994
負債純資産合計	22,277,699	23,151,014

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
売上高	34,843,477	35,959,356
売上原価	26,358,440	26,912,421
売上総利益	8,485,036	9,046,934
営業収入	401,577	423,666
営業総利益	8,886,614	9,470,601
販売費及び一般管理費	7,509,730	7,961,392
営業利益	1,376,884	1,509,208
営業外収益		
受取利息	3,289	2,941
受取配当金	2,491	2,628
その他	6,482	8,395
営業外収益合計	12,264	13,966
営業外費用		
支払利息	556	395
その他	673	572
営業外費用合計	1,229	967
経常利益	1,387,918	1,522,206
特別損失		
固定資産除却損	10,158	2,283
減損損失	—	85,205
特別損失合計	10,158	87,489
税引前四半期純利益	1,377,760	1,434,717
法人税、住民税及び事業税	386,956	496,866
法人税等調整額	5,030	△43,709
法人税等合計	391,986	453,157
四半期純利益	985,773	981,559



（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。